

昭和62年 WHEEL HOUSE, CONTROL ROOM

1. 「汐路丸」 「船の科学」1987-7 (Vol.40, No.7)、1987-8 (Vol.40, No.8) より採取。

・東京商船大学練習船「汐路丸」(世)

1) W62-01 汐路丸 本船全景

総トン数 425T 乗組員 12名 他50名
航海情報、船体運動情報、主機、CPP、スラ
スター等の運転に関する情報の収集、舵取機、
主機、CPP、スラスターのコンピュータ制御
に関する研究を行う。



ロランC, ロランA, - ロラン, NNSS,
GPS、デッカ、オメガ、衝突予防レーダなど
を備えた総合電波航法装置を装備している。

・船主 : 東京商船大学

・建造 : 石川島播磨重工業(株)

昭和62年2月10日 竣工

・1) は本船全景、2) は操舵室、3) は総合電波航法装置、4) は研究データ収集システム、5) は機関制御室。

2) W62-02 汐路丸 操舵室



3) W62-03 汐路丸 総合電波航法装置



4) W62-04 汐路丸 研究データ収集システム



5) W62-05 汐路丸 機関制御室



2. 「金陽」 「船の科学」1987-9 (Vol.40, No.9) より採取。

・最大級 1,300 t/h 型アンローダシステム搭載、308 万 CF 型木材チップ運搬船「金陽」 DWT 42,596 t

・船主 : Yashima Marine (Liberia) Co., Ltd.

・建造 : (株)大島造船所 昭和61年9月10日 竣工

・6) は本船全景、7) は操舵室。

6) W62-06 金陽 本船全景



7) W62-07 金陽 操舵室



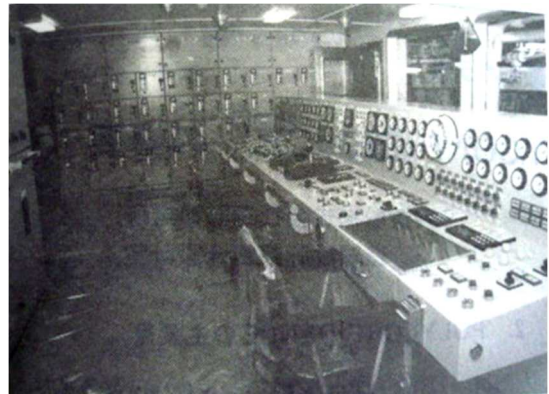
3. 「フェリーくにが」 「船の科学」1987-10 (Vol.40, No.10) より採取。

- ・2,900 総トン型鋼製旅客船兼自動車航走船「フェリーくにが」総トン数 2,939 T
搭載車輛 8 Tトラック×5、乗用車 25 台、または乗用車のみ 50 台 旅客定員 750 名
バウスラスタ、フィンスタビライザー 装備、 隠岐の島 (4島) と境港 (島根県) 間航走。
- ・船主 : 隠岐汽船 (株) ・建造 : 林兼造船 (株) 長崎造船所 昭和62年3月25日 竣工
- ・8) は本船全景、9) は機関制御室。

8) W62-08 フェリーくにが 本船全景



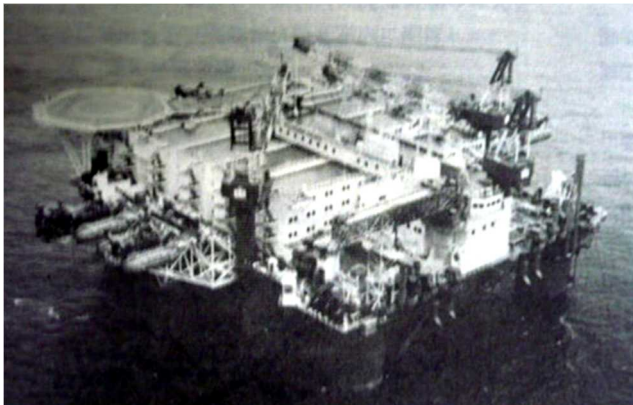
9) W62-09 フェリーくにが 機関制御室



4. 「POLYCONFIDENCE」 「船の科学」1987-10 (Vol.40, No.10) より採取。

- ・自航式半潜水型豪華ホテル、世界最初のフローテル (Floating Hotel) 「POLYCONFIDENCE」
北海にて油田開発に従事する技術者、作業員の宿舎や休養施設として使用される。北欧風高級ホテル仕様で、各種の娯楽設備を備えている。8組のスラスタを持ち、自動船位保持装置 (DPS) を装備している。発電設備は 3,150 kW/6,600V 60Hz。 総トン数 33,000 トン、 定員 800 名。
- ・船主 : K/S Rasmussen Offshore (Norway) ・建造 : 三井造船 (株) 玉野事業所 昭和62年5月30日竣工
- ・10) は本船全景、11) は Bridge Control Room。

10) W62-10 POLYCONFIDENCE 本船全景



11) W62-11 同左 Bridge Control Room



5. 「かりふおるにあ まーきゅりー」(CARFORNIA MERCURY) 「船の科学」1987 - 11 (Vol.40, No.11) より採取。

・ 4 次コンテナ船「かりふおるにあ まーきゅりー」 DWT 39,157t コンテナ搭載数 2,704 TEU C段階近代化仕様(16名運航)ならびに パイオニア・シップ実験船(11名運航)として建造。

・ 船主 : 日本郵船(株) ・ 建造 : 三菱重工業(株)神戸造船所 昭和62年9月4日 竣工

12) W62 - 12 本船全景

本船の Wheel House, Control Room の写真はないが、11名運航の実験船と云うことで取り上げた。



6. 「新ゆうふつ丸」 「船の科学」1987 - 12 (Vol.40, No.12) より採取。

・ 内航高速コンテナ船「新ゆうふつ丸」 DWT 3,016t コンテナ搭載数 240 TEU 日本通運の内航海上輸送「あかしあライン」(東京 - 苫小牧)に就航。

・ 船主 : 船舶整備公団、栄興船舶(株) 日本マリン(株)

・ 建造 : 内海造船(株)瀬戸田 昭和62年9月26日 竣工

13) W62 - 13 新ゆうふつ丸 本船全景

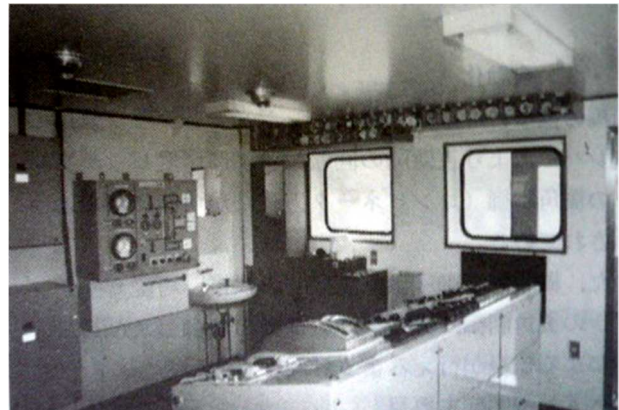


・ 13) は本船全景、14) 15) は操舵室。

14) W62 - 14 新ゆうふつ丸 操舵室(1)



15) W62 - 15 新ゆうふつ丸 操舵室(2)



7. 「深江丸」 「船の科学」1988 - 1 (Vol.41, No.1) より採取。

・ 神戸商船大学練習船「深江丸」(世) 総トン数 499T 定員 64名(学生 48名、教官 4名、乗組員 12名) 船内の各種データを収集し、船内各所に設置の端末、研究用コンピュータにより航海実験、研究、調査を効率的に

行うため Local Area Network システムおよびデータ処理システムを装備している。

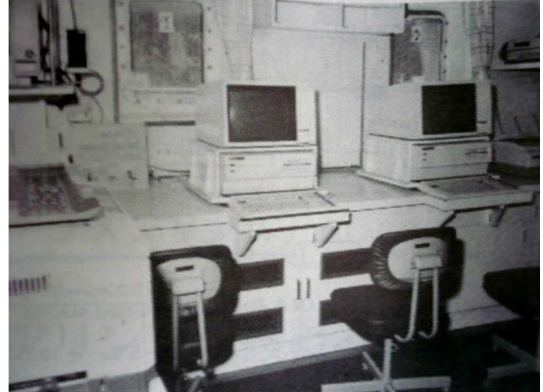
主機からの振動を最小限におさえるため油圧式アクティブ防振装置を装備している。

- ・船主 : 神戸商船大学
- ・建造 : 三井造船(株)玉野事業所 昭和62年10月14日 竣工
- ・16)は本船全景、17)はLAN/データ処理システム。

16) W62-16 深江丸 本船全景



17) W62-17 深江丸 LAN/データ処理装置



8. 「しんぷう」 「船の科学」1988-1 (Vol.41, No.1) より採取。

- ・福岡県漁業取締船、最新鋭大型高速取締船「しんぷう」 総トン数 106 T、32m大型軽合金船、最高速力 35ノット、主機 西ドイツ製 MTU16V396TB94 × 2基 採用。
- ・船主 : 福岡県
- ・建造 : 三菱重工業(株)下関造船所 昭和62年7月7日 竣工
- ・18)は本船全景、19)は操縦席。

18) W62-18 しんぷう 本船全景



19) W62-19 しんぷう 操縦席



9. 「しらなみ」 「船の科学」1988-2 (Vol.41, No.2) より採取。

- ・最新鋭愛知県水質調査船「しらなみ」伊勢湾、三河湾に就航、総トン数 30 T
- 乗組員 6名、調査員 4名
- ・調査機器 : 流向流速計、水中照度計、曳航式水中濁度計、CSTD 計、プランクトン拳動解析装置、各種採水・採泥器など。
- ・船主 : 愛知県
- ・建造 : ニュージャパン・マリン(株) 昭和62年11月30日 竣工

20) W62-20 しらなみ 本船全景



- ・20)は本船全景、21)は操舵室/航海用計器類、22)は測定室/調査用機器類。

21) W62-21 しらなみ 操舵室



22) W62-22 しらなみ 測定室



10. 「CHOAPA」(チョアパ) 「船の科学」1988-2 (Vol.41, No.6) より採取。

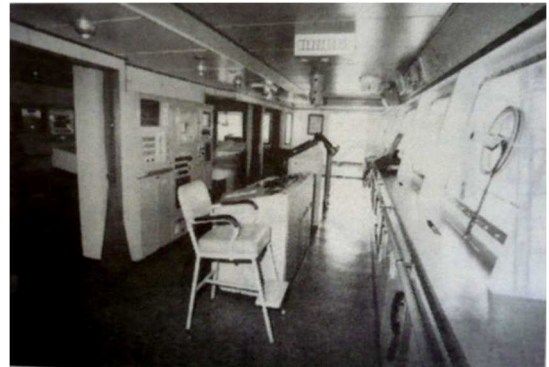
- ・世界最大級67万CFT型輸出冷凍運搬船「CHOAPA」DWT12,848t 南米-北米間 果物類の輸送。
- ・船主 : Choapa Reefer Co.,S.A.(Liberia)
- ・建造 : (株)新来島どっく 大西工場 昭和62年11月16日 竣工

・23)は本船全景、24)は操舵室。

23) W62-23 CHOAPA 本船全景



24) W62-24 CHOAPA 操舵室



[メモ]

- 1) この年の珍しい船、特殊な船としては 商船大学の練習船(「汐路丸」、「深江丸」)、自航式半潜水型豪華ホテル(フローテル: Floating Hotel)、漁業取締船、水質調査船などが挙げられる。
- 2) 商船大学の船では 計測やデータ収集システムのコンピュータ化が進み、LAN(Local Area Network)が導入されている。
- 3) 11名運航のパイオニア・シップ実験船として、コンテナ船「かるふおるにあ まーきゅりー」が紹介されていたので、Wheel House, Control Roomの写真はなかったが、収録した。
- 4) フローテル(Floating Hotel)は珍しい建造物なので取り上げた。この当時は海洋掘削などで、このような設備の需要があったことは窺える。